

横浜文化体育館再整備事業について

横浜文化体育館再整備事業の落札者が決定しましたので、ご報告します。

1 落札者決定までの経過

平成 29 年 3 月 21 日に総合評価一般競争入札方式による入札公告を行い、7 月 18 日に 1 グループから入札及び提案書の提出がありました。

外部有識者で構成する横浜市民間資金等活用事業審査委員会において提案内容の審査を行い、同委員会が最優秀提案者とした株式会社フジタグループを落札者として本日決定しました。

2 落札者

株式会社フジタグループ

代表企業	株式会社 フジタ	(統括管理、設計、建設)
構 成 員	株式会社 電通	(統括管理、運営)
	株式会社 梓設計	(設計、工事監理)
	大成建設 株式会社	(設計、建設)
	馬淵建設 株式会社	(建設)
	株式会社 渡辺組	(建設)
	川本工業 株式会社	(建設)
	公益財団法人 横浜市体育協会	(運営)
	日本管財 株式会社	(維持管理、修繕)
	スターツコーポレーション 株式会社	(運営、民間収益事業(ホテル、飲食店等))
協力会社	株式会社 アーキボックス	(設計、工事監理)
	株式会社 ハリマビシステム	(維持管理)
	株式会社 電通東日本	(運営)
	株式会社 テレビ神奈川	(運営)
	株式会社 神奈川新聞社	(運営)
	横浜エフエム放送 株式会社	(運営)
	株式会社 ディー・エヌ・エー	(運営)
	株式会社 横浜アリーナ	(運営)
その他企業	一般社団法人 日本海員掖済会	(民間収益事業(病院))

※構成員 : PFI 事業者に出資を行う法人

※協力会社 : PFI 事業者から業務を受託し、又は請け負う法人で、かつ、PFI 事業者に出資を行わない法人

※その他企業 : 構成員又は協力会社以外で、民間収益事業者などの法人

3 落札額

31,330,000,000 円 (消費税及び地方消費税相当額を含む)

4 今後の予定

平成 29 年 10 月	基本協定の締結
平成 29 年 12 月下旬	本契約の締結 (事業契約にかかる議会議決)
平成 29 年 12 月～平成 32 年 10 月下旬	サブアリーナ施設の設計・建設・開館準備
平成 32 年 10 月下旬	サブアリーナ施設の供用開始
平成 29 年 12 月～平成 36 年 3 月	メインアリーナ施設の設計・建設・開館準備
平成 36 年 4 月	メインアリーナ施設の供用開始

【参考1】事業概要

事業名称：横浜文化体育館再整備事業

事業場所：横浜市中区不老町2丁目7番地、中区翁町2丁目9番地10

事業内容：横浜文化体育館の設計、建設、工事監理、維持管理、修繕及び運営を行います。

事業期間：事業契約締結日から平成51年3月31日まで

事業方式：BTO方式（民間事業者が施設の設計・建設・工事監理を行った後、その所有権を横浜市に移管した上で、民間事業者が施設の維持管理・保全を行います）

【参考2】落札者の提案内容

横浜文化体育館 概要（予定）

	メインアリーナ施設	サブアリーナ施設（横浜武道館）
階数	地上3階	地上4階
構造形式	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造	
延床面積	15,514 m ²	14,514 m ²

民間収益施設 概要（予定）

	民間収益施設① （メインアリーナ施設敷地）	民間収益施設② （サブアリーナ施設敷地）
階数	地上7階	地上7階
構造形式	鉄骨造	鉄筋コンクリート造
延床面積	4,158 m ²	7,600 m ²
用途	ホテル、飲食店、店舗、駐車場	病院



メインアリーナ施設・サブアリーナ施設 鳥瞰図

※上図は提案資料として提出されたものであり、実際の建物とは異なる場合があります。

メインアリーナ施設



①外観図



②外観図



③外観図

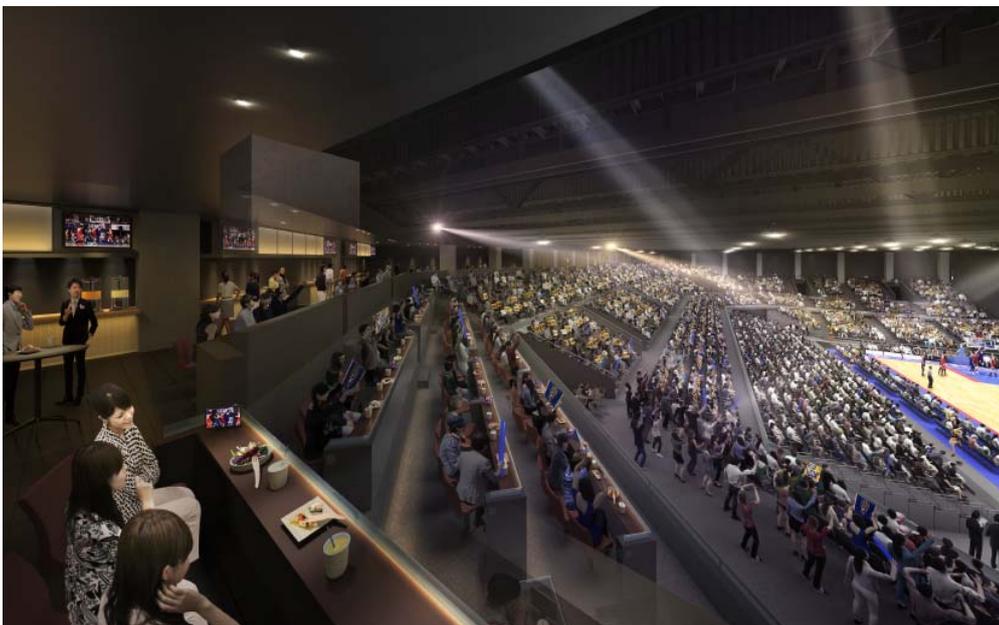
※上図は提案資料として提出されたものであり、実際の建物とは異なる場合があります。



④内観図（スポーツ）



⑤内観図（コンサート）



⑥内観図（プレミアムラウンジ）

※上図は提案資料として提出されたものであり、実際の建物とは異なる場合があります。

サブアリーナ施設（横浜武道館）



①外観図



②外観図（アプローチ部分）



③内観図（エントランスホール）

※上図は提案資料として提出されたものであり、実際の建物とは異なる場合があります。

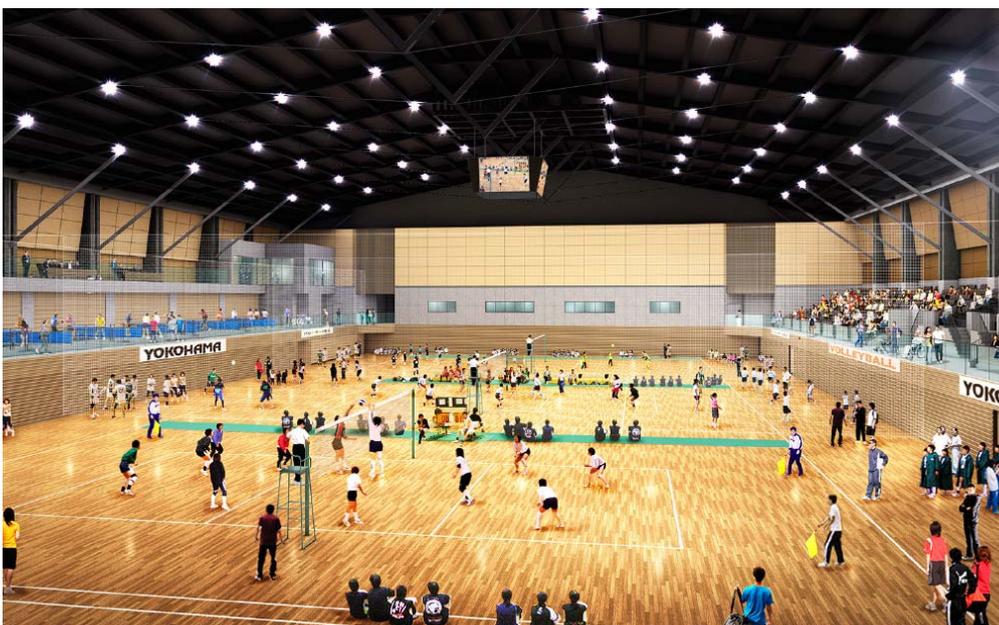
サブアリーナ施設（横浜武道館）



④内観図（武道場）



⑤内観図（アリーナ）



⑥内観図（アリーナ）

※上図は提案資料として提出されたものであり、実際の建物とは異なる場合があります。